

# 11. ハタ類資源管理技術開発事業

上利貴光・戸澤隆・山口功・松本尚之

本県漁業者にとって重要な漁業資源であるクエ、キジハタ等ハタ類について、今後、予想される漁獲圧増加に対する資源管理手法の提示を行う。

クエについては、漁業実態把握による的確な資源評価と資源管理効果予測を行うとともに、試験放流魚の追跡調査による移動の把握及び放流効果の推定を行う。

その他ハタ類については、キジハタをモデル種として、本県の資源増殖の方向性を検討するための漁獲実態と資源生態等を把握する基礎調査を行う。

## I. クエ

### 1. 資源解析

#### 方法

平成13年度から28年度までの長崎魚市の活魚クエ取扱量データを用いて、年齢分解による漁獲実態の分析と、コホート解析による資源量の推定に取り組んだ。

なお、年齢分解は、取扱魚1尾ごとの重量を全長に換算し、国・関係府県で連携して組織した「ハタ類資源解析研究会」で整理した長崎県、熊本県及び国立研究開発法人水産研究・教育機構西海区水産研究所の合算データによるAge-length keyを用いて行った。

#### 結果

年齢分解の結果、未成熟の可能性が高い8歳未満の若齢魚の漁獲が年々増えていることが確認された。

資源量は増加していると推定され、若齢魚の増加が示すとおり、再生産成功率は向上しているが、親魚の資源尾数はやや減少傾向であった(図1)。

クエは非常に寿命が長く、成長も緩やかな魚種であることから、的確な資源評価を行うためには、今後も継続したデータ収集及び解析が必要と考え

られた。

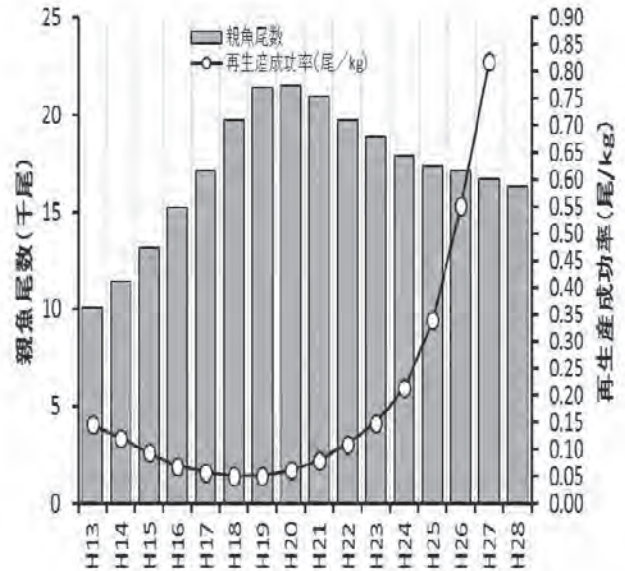


図1 親魚尾数と再生産成功率

### 2. 追跡調査

#### 方法

**平成26年放流群** 平成26年11月に西海市大瀬戸町福島港内外に放流(2箇所×3,000尾, TL:14 cm, 鰓蓋切除標識)したクエの移動把握のため、同港内外定点21箇所の雑魚籠設置による追跡調査及び漁獲物調査を行った。

なお、追跡調査で再捕された放流魚は調査現場で全長測定し、個体識別用スパゲティタグを背鰭基部に装着した後、再放流した。

**その他試験放流群** 西海市大瀬戸地区における上記以外放流群の追跡調査として、大瀬戸町漁協に水揚げされたクエの放流魚混入調査を行った。

#### 結果

**平成26年放流群** 今年度は四半期ごと計4回の追跡調査を実施し、4尾(港口深場放流群1尾, 港奥浅場放流群3尾)が再捕された。

また、12月に同港外付近の漁場において、漁獲物に同群放流魚4尾の混入があり、漁獲に加入し

ていることが確認された。漁獲された個体は、いずれも追跡調査で再捕された個体より大きく、最大で全長 495 mm であった (図 2)。

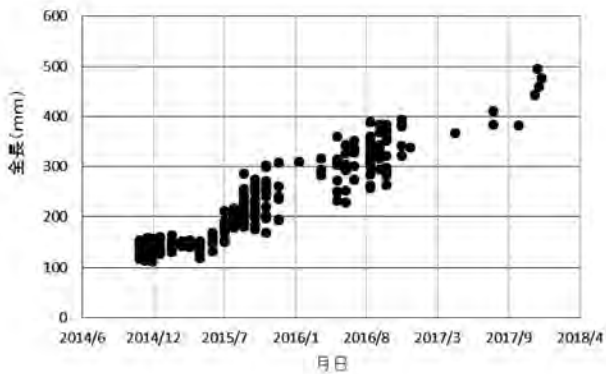


図 2 H26 放流再捕魚の全長推移

**その他試験放流群** 平成 29 年度の大瀬戸町漁協の漁獲物から放流魚 16 尾 (平成 23 年西海市放流群 1 尾, 平成 25 年西海市放流群 15 尾) を検出した。漁獲量における混入率は 2.4% であった。

## Ⅱ. キジハタ

### 1. 漁獲実態調査

#### 方法

平成 28 年度の長崎魚市の活魚キジハタ取扱量データを用いて漁獲物組成を調査するとともに、漁獲実績のある複数漁協に対して、近年の漁獲量調査を行った。

#### 結果

平成 28 年度の漁獲物組成は図 3 のように推定され、1 kg 未満の個体が約 8 割を占める結果となった。

調査漁協の漁獲量の推移によると、いずれもこ

数年で漁獲量が急激に増えており、多い漁協では年間 2 トンから 3 トンの規模で漁獲されていることが確認された。

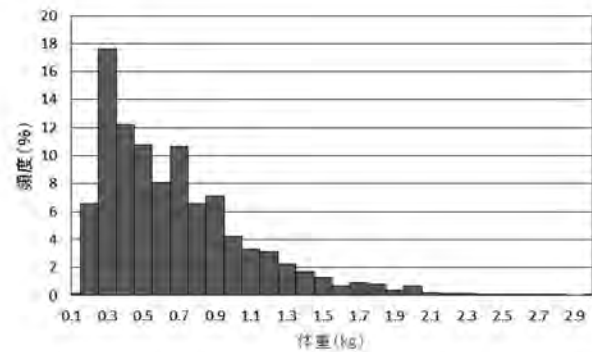


図 3 H28 キジハタ体重組成

### 2. 資源量推定

#### 方法

国・関係府県で連携して組織した「ハタ類資源解析研究会」で整理された体重-全長換算式が、本県で漁獲されたキジハタにおいても使用可能を確認するため、平成 28 年度から 29 年度までに収集した漁獲物サンプル 107 尾の全長、体重の実測値と照合した。

#### 結果

照合した結果、全長の実測値と換算式を用いて算出した全長の値は、ほぼ一致することが確認された。

今後は、同研究会で整理された Age-length key の使用の可否を検討し、長崎魚市の活魚キジハタ取扱量データ等を用いた漁獲物の年齢分解に取り組む。

(担当：上利)